陸連時報

2016 平成28年 5 月号

題字は平沼亮三（初代陸連会長）の書

目　　次

2016年度主要競技会日程 …… 198
理事会報告 …… 199
強化関連情報 …… 202
　2016年シーズンの抱負（強化委員会）
　ダイヤモンドアスリート・U19やり投フィンランド合宿報告（強化育成部 投てき担当　永井啓太）
第1回全国中学生クロスカントリー選手権大会中学生招待選手研修会報告 …… 207
2016JRDM（ジャパンレースディレクターズミーティング）報告 …… 208
アジア陸上競技連盟（AAA）会議報告 …… 210
　第84回アジア陸上競技連盟（AAA）理事会報告（会長　横川浩）
　AAA School and Youth Commission会議参加報告（専務理事　尾縣貢）
　AAAアスリートコミッション会議参加報告（室伏広治）
大会観戦ガイド …… 211
陸協NEWS …… 212
事務局からのお知らせ …… 214

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2016年度主要競技会日程

	主催競技会			主要競技会			国際競技会		
	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
4月				2(土)	★ 25 金栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)			
	17(日)	100 日本選手権50km競歩	石川	23(土)~24(日)	★ 70 出雲陸上	浜山(島根)			
	17(日)	18 長野マラソン	長野	24(日)	★ GP① 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)			
				29(金・祝)	★ GP② 織田記念陸上	広域公園(広島)			
				30(土)~5/1(日)	★ GP③ 日本選抜陸上和歌山	紀三井寺(和歌山)			
5月				3(火・祝)	★ GP④ 静岡国際陸上	エコパ(静岡)			
				5(木・祝)	★ 16 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)			
				7(土)	★ 27 ゴールデンゲームズinのべおか	延岡(宮崎)	7(土)~8(日)	世界競歩チーム選手権	ローマ(イタリア)
	8(日)	ゴールデングランプリ	等々力(神奈川)	8(日)	★ 26 仙台国際ハーフマラソン	宮城			
				15(日)	★ 6 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜			
6月		62 全日本中学通信陸上	各地				2(木)~6(月)	17 アジアジュニア陸上競技選手権	ホーチミン(ベトナム)
	11(土)~12(日)	100 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	10(金)~12(日)	○ '16 日本学生個人	平塚(神奈川)			
	11(土)~12(日)	32 日本ジュニア選手権混成	長野市営(長野)						
	24(金)~26(日)	100 日本陸上競技選手権	瑞穂(愛知)	26(日)	★ 31 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道			
7月							3(日)＊予定	3 日中韓3カ国交流陸上	金泉(韓国)
				10(日)	★ 29 南部記念陸上	厚別(北海道)			
				23(土)	★ 56 実業団・学生対抗	平塚(神奈川)	19(火)~24(日)	U20世界陸上競技選手権	ビドゴシチ(ポーランド)
	29(金)~8/2(火)	69 全国高校陸上	岡山(岡山)						
8月	11(木)~14(日)	51 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)	7(日)	★ 41 蔵王坊平クロスカントリー	上山(山形)	12(金)~21(日)	31 オリンピック競技大会	リオデジャネイロ(ブラジル)
	20(土)	32 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)						
	21(日)~24(水)	43 全国中学陸上	松本平(長野)						
	24(水)~25(木)	51 全国高専陸上	瑞穂(愛知)	28(日)	★ '16 北海道マラソン	北海道	23(火)~29(月)	24 日・韓・中ジュニア交流競技会	寧波(中国)
	27(土)~28(日)	4 全国高校陸上選抜	ヤンマーフィールド長居(大阪)						
9月				2(金)~4(日)	○ 85 日本学生対校	熊谷(埼玉)	13(火)	'16 デカネーション	マルセイユ(フランス)
				17(土)~19(月・祝)	★ 37 全日本マスターズ	デンカビッグスワンスタジアム(新潟)			
				23(金)~25(日)	★ 64 全日本実業団	ヤンマースタジアム長居(大阪)			
10月	7(金)~11(火)	71 国民体育大会	北上(岩手)	10(月・祝)	○ 28 出雲全日本大学選抜駅伝	島根			
	21(金)~23(日)	32 日本ジュニア選手権	瑞穂(愛知)	23(日)	★ 55 全日本50km競歩高畠	山形			
	21(金)~23(日)	10 日本ユース選手権	瑞穂(愛知)	23(日)	★ 13 田島記念陸上	維新百年記念(山口)			
	28(金)~30(日)	100 日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)	30(日)	★ 6 大阪マラソン	大阪			
	28(金)~30(日)	47 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)	30(日)	○ 34 全日本大学女子駅伝	宮城	26(水)~11/6(日)	22 世界マスターズ陸上競技選手権	パース(オーストラリア)
11月				6(日)	○ 48 全日本大学駅伝	愛知・三重			
	13(日)＊予定	2 さいたま国際マラソン	埼玉	13(日)	★ 32 東日本女子駅伝	福島			
				20(日)＊予定	★ 6 神戸マラソン	兵庫			
				27(日)	★ 36 全日本実業団女子駅伝	宮城			
12月	4(日)	70 福岡国際マラソン	福岡	11(日)	★ 16 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)			
	11(日)	19 小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)	11(日)	★ 28 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)			
	18(日)	24 全国中学駅伝	滋賀	18(日)	★ '47 防府読売マラソン	山口			
	25(日)	67 28全国高校駅伝	京都	23(金・祝)	★ 35 山陽女子ロードレース	岡山			
				日程調整中	○ '16 全日本大学女子選抜駅伝	静岡			
2017 1月	15(日)	35 都道府県対抗女子駅伝	京都	1(日・祝)	65 元旦競歩	東京			
	22(日)	22 都道府県対抗男子駅伝	広島	1(日・祝)	61 全日本実業団駅伝	群馬			
	29(日)	36 大阪国際女子マラソン	大阪	29(日)	'17 大阪ハーフマラソン	大阪			
2月	4(土)~5(日)	'17 日本ジュニア室内大阪	大阪城ホール(大阪)	5(日)	66 別大マラソン	大分			
	19(日)	100 日本選手権20km競歩	兵庫	5(日)	71 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川			
	19(日)	2 全国中学生クロスカントリー	昭和の森(千葉)	12(日)	57 唐津10マイル	佐賀			
	25(土)＊予定	100 日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	12(日)	45 実業団ハーフマラソン	山口			
	26(日)	'17 東京マラソン	東京	19(日)	51 青梅マラソン	東京			
				19(日)	61 熊日30キロロードレース	熊本			
				19(日)	'17 京都マラソン	京都			
3月	5(日)	72 びわ湖毎日マラソン	滋賀	5(日)	○ 20 日本学生ハーフマラソン	東京			
	12(日)	'17 名古屋ウィメンズマラソン	愛知						
	19(日)	41 全日本競歩能美	石川	19(日)	○ 11 日本学生20km競歩	石川	19(日)	アジア陸上競技選手権・20km競歩	石川
				19(日)	38 まつえレディースハーフマラソン	島根			
							26(日)	42 世界クロスカントリー選手権大会	カンパラ(ウガンダ)
				日程調整中	20 日本学生女子ハーフマラソン	未定			

★＝後援競技会、○＝協力団体主要競技会

日程調整中　IAU100km世界選手権　未定

理事会報告

第34回理事会

日時：2016年３月17日（木）
　　13時57分～16時52分
場所：ハイアットリージェンシー東京
　　地下１階　平安

理事総数30名中出席者29名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

【協議事項】

１．第６期事業計画・収支予算

尾縣専務理事より事業計画が、小手川財務委員長より収支予算が、資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

[第６期事業計画]

第5期事業計画からの変更点および第6期事業計画において特に強調したい点は下記の通り。

（１）指導者養成

JAAF公認ジュニアコーチ講習会の講師養成を開始する。2020年以降の本連盟としての国民との関わり方の理念をまとめ、指導者養成制度のあり方について再構築する。

（２）リオデジャネイロオリンピック

国際的に活躍する競技者の強化・育成事業の集大成である第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）の目標として、メダル1、入賞5を掲げる。

（３）トップ競技者の強化・育成

強化競技者制度は、リオデジャネイロオリンピック終了後に、この４年の成果を評価し、2020年東京オリンピックに向けた競技者支援のあり方を再検討し、必要に応じて制度を改定する。

（４）ドーピング防止活動

昨今の陸上界に於けるドーピング問題を受け、更にその活動を強化する。積極的な教育・啓発活動に重点をおき、日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と連携しながら行う。

（５）国際的な活動

2020年東京オリンピック開催を控え、より一層の国際交流を深め、世界情勢を把握した上で、世界各国の期待を実現出来るよう、様々な競技団体の先陣に立ち活動を推進する。

[第６期収支予算]

経常収益、経常費用ともに20億7,080万円となり、当期経常増減額は、前期同様±０円となる。

（１）経常収益

①基本財産運用収益は300万円。基本財産12億円に対する利息収入。

②登録料受入収益は2,600万円。登録会員からの登録料収入は、一般と大学生が各100円、高校と中学生が各50円。登録者数が年々増えていることから、50万円増額した。

③加盟金受入収益は470万円。1加盟団体から10万円の加盟金を納めて頂いている。

④受取寄付金は2,500万円。第5期に引き続き、東京マラソン財団からの寄付金。

⑤受取委託金・助成金は、３億4,810万円。日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センターからの委託金・助成金収入。

⑥事業収益は16億1,100万円。オフィシャルサプライヤー・スポンサー料と競技会での協賛金、参加料、入場料収益、放送権料等が主な収入。

⑦その他事業収益は5,260万円。器具検定料、競技場公認料、ナンバーカード広告料、後援名義使用料等の収入。

⑧雑収益は40万円。受取利息。

（２）経常費用

①事業費は19億6,006万円。競技会予算、委員会予算、広報予算、加盟団体への地域活性化対策費、アスレティックアワード等のイベントに関する費用。

②管理費の事務局運営費等は1億1,074万円。

（３）各委員会予算

総務委員会146万円、強化委員会5億6,891万円、法制委員会24万円、財務委員会60万円、競技運営委員会1,629万円、普及育成委員会7,252万円、国際委員会15万円、施設用器具委員会1,370万円、科学委員会1,296万円、医事委員会1,950万円

２．2016年度主要競技会日程

尾縣専務理事より説明があり、原案通り承認された。詳細は、本時報198頁参照。

３．2015年度栄章

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

功労章３名、秩父宮章35名、高校優秀指導者章47名、中学優秀指導者章47名、高校優秀選手章47名、中学優秀選手章47名、世界記録章１名、日本記録章延べ８名と２チーム、室内日本記録章延べ１名、ジュニア日本記録章延べ６名と１チーム、ジュニア室内日本記録１名。

4．第100回日本陸上競技選手権リレー競技大会参加資格

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案通り承認された。詳細は本時報201頁参照。

5．第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）トラック＆フィールド種目代表選手選考要項の改定

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、選考要項策定時と事情が変わったことにより、リレー種目の選考基準を改定する旨が原案通り承認された。

［改定箇所］

3．選考基準

（5）リレー種目

リレー種目の代表の選考は、個人種目に準じて選考するが、リレーの特性を考慮する。

なお、2016年度はワールドリレーズが開催されないため、ナショナルリレーチームの優位性は特に定めない。なお、以下を削除する。

【報告事項】

1．2016年度強化競技者

麻場強化委員長より資料に基づき、2016年3月17日付けのゴールドアスリート4名、シルバーアスリート13名が報告された。

ゴールドアスリート（4名）：新井涼平（スズキ浜松AC）、鈴木雄介（富士通）、髙橋英輝（富士通）、谷井孝行（自衛隊体育学校）

シルバーアスリート（13名）：髙瀬慧（富士通）、藤光謙司（ゼンリン）、村山紘太（旭化成）、鎧坂哲哉（旭化成）、山本聖途（トヨタ自動車）、藤澤勇（ALSOK）、荒井広宙（自衛隊体育学校）、伊藤舞（大塚製薬）、福士加代子（ワコール）、田中智美（第一生命）、小原怜（天満屋）、甲斐好美（VOLVER）、海老原有希（スズキ浜松AC）

2．第7回アジア室内陸上競技選手権大会（2016／ドーハ）報告

麻場強化委員長より資料に基づき、2016年2月19日から21日まで、カタール・ドーハにおいて開催された第7回アジア室内陸上競技選手権大会にて、金メダル1、銀メダル1、銅メダル3を獲得し、中村明彦が七種競技・室内日本記録を樹立した旨、報告された。

3．第13回アジアクロスカントリー選手権大会（2016／マナマ）報告

麻場強化委員長より資料に基づき、2016年2月29日にバーレーン・マナマにおいて開催された第13回アジアクロスカントリー選手権大会にて、ジュニア女子で向井優香（世羅高校）が3位、シニア男子団体2位、ジュニア男子団体2位、ジュニア女子団体2位の成績であった旨、報告された。

4．2016世界室内陸上競技選手権大会（ポートランド）日本代表選手

麻場強化委員長より資料に基づき、選手4名（男子3名、女子1名）の日本代表選手が報告された。

5．第22回世界ハーフマラソン選手権大会（2016／カーディフ）日本代表選手

麻場強化委員長より資料に基づき、選手10名（男子5名、女子5名）の日本代表選手が報告された。

6．2016年度S級公認審判員昇格者

鈴木競技運営委員長より資料に基づき報告された。

都道府県陸上競技協会からの推薦者255名に対してS級昇格者は254名であった。

7．第5期JTOs合格者および第5期JRWJs合格者

鈴木競技運営委員長より資料に基づき報告された。

第5期JTOs合格者は17名、第5期JRWJs合格者は5名であった。

8．2016年度競技規則の修改正

鈴木競技運営委員長より資料に基づき報告された。

9．2015年度加盟団体連絡協議会報告

尾縣専務理事より資料に基づき説明があった。

2015年度に各地域陸上競技協会にうかがい開催した協議会の内容を、組織、登録、財政、会計、競技会、強化、普及育成、競技運営、施設用器具等に区分し、その要望、それから考えられる回答を報告書とした。

10．第1回地域選手権活性化協議会報告

尾縣専務理事より資料に基づき説明があった。

日本陸上競技選手権大会につながる地域陸上競技選手権大会をどうするかというテーマで協議会を開催し、2017年度日本陸上競技選手権大会の参加資格について報告を行った。

11．ロードレースコミッションの創設

尾縣専務理事より資料に基づき説明があった。

2016年2月27日開催のジャパン・ロードレース・ディレクターズ・ミーティングの際にプレゼンテーションしたロードレースコミッションの創設について報告をし、今後、コミッションにおいて、いろいろなロードレースの問題点、現状を把握しながら、情報を共有し解決策を提示していくこととなった。

なお、非公開において、「第6期～第10期長期財務計画および長期資金繰り表」、「第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）マラソン日本代表選手選考」を協議し、承認された。

第100回日本陸上競技選手権リレー競技大会参加資格

【背景】

現在の日本陸上競技選手権リレー競技大会参加資格について、実業団チームの一部は本連盟の登録上、所属する都道府県陸協が事業所の関係で同一ではなく、所属陸協が同一でないとチームとして出場できないルールとなっている。全日本実業団選手権や地域実業団選手権では、実業団のルールに基づいて所属陸協が異なっていても同一チームとして参加することができる。日本陸上競技選手権リレー競技大会は真の日本一を決めるための大会であり、現在出場チームが大学チーム主体となっていることも懸念事項であるため、実業団チームの参加条件について、実業団大会で出場権を与えることを焦点に、参加資格／参加制限の整備をすることを検討したい。

【参加資格／参加制限の変更点】

<第99回日本陸上競技選手権リレー競技大会>

■参加資格

2015年度本連盟登録競技者で、日本国籍を有する競技者（日本で生まれ育った外国籍競技者を含む）で編成したチームとし､次の（1）～（3）のいずれかに該当するチーム。

（1）2014年度第98回日本陸上競技選手権保持チーム。ただし、その種目に限る。

（2）2015年4月1日から2015年9月14日までの間に、A標準記録に到達したチーム。

［標準記録］

		A標準記録	B標準記録
男子	4×100mリレー	40.30	40.70
	4×400mリレー	3:11.00	3:13.00
女子	4×100mリレー	46.70	47.00
	4×400mリレー	3:46.00	3:48.00

※電気時計（写真判定装置）で計測したもののみ有効とする。

※下線は98回大会との変更箇所。

（3）2015年度に行われた地域選手権大会（北海道、東北、関東、東京、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州選手権）、日本学生対校選手権大会、全日本実業団対抗選手権大会、全国高等学校対校選手権大会で第3位までに入賞したチームで、その大会時にB標準記録に到達したチーム。ただし、その種目に限る。

■参加制限

（1）同一クラブ、学校、事業所を代表する1チームであること。

（2）２つ以上のクラブ、学校、事業所を代表する選抜チームは認めない。

（3）大学チームにおいては、学連の競技会以外で参加資格を得る場合は、同一県所属の選手で構成したチームで樹立した記録でなければならない。また本大会へのエントリーにも同一県所属の選手でチームを構成する必要がある。

＊参加可能チーム総数の制限について

本大会は日本選手権であるので、第99回日本陸上競技選手権大会の参加資格6項「但し競技運営上困難が生じた場合は上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。」が適用される。

本大会の各種目の参加可能チーム数はそれぞれ27チーム以下とする。

28チーム以上のエントリーがあった場合は、参加資格（1）、（2）、（3）の順で優先される。

<第100回日本陸上競技選手権リレー競技大会>

■参加資格

2016年度本連盟登録競技者で、日本国籍を有する競技者（日本で生まれ育った外国籍競技者を含む）で編成したチームとし､次の（1）～（3）のいずれかに該当するチーム。

（1）2015年度第99回日本陸上競技選手権保持チーム。ただし、その種目に限る。

（2）2016年4月1日から2016年9月20日までの間に、A標準記録に到達したチーム（2つ以上のクラブ･学校･事業所を代表する選抜チームを除く）
2016年度に行われた実業団選手権大会（全日本・東日本・北陸・中部・関西・中国・九州）で第3位までに入賞し､その大会時にA標準記録に到達したチーム。ただし、その種目に限る。

［標準記録］

		A標準記録	B標準記録
男子	4×100mリレー	40.30	40.70
	4×400mリレー	3:11.00	3:13.00
女子	4×100mリレー	46.70	47.00
	4×400mリレー	3:46.00	3:48.00

※電気時計（写真判定装置）で計測したもののみ有効とする。

（3）2016年度に行われた地域選手権大会（北海道、東北、関東、東京、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州選手権）、日本学生対校選手権大会、全国高等学校対校選手権大会で第3位までに入賞したチームで、その大会時にB標準記録に到達したチーム。ただし、その種目に限る。
2016 年度に行われた実業団選手権大会（全日本・東日本・北陸・中部・関西・中国・九州）で第3位までに入賞し、その大会時にB標準記録に到達したチーム。ただし、その種目に限る。

■参加制限

（1）同一クラブ、学校、事業所を代表する１チームであること。

~~（2）2つ以上のクラブ、学校、事業所を代表する選抜チームは認めない。~~

（2）大学チームにおいては、学連の競技会以外で参加資格を得る場合は、同一県所属の選手で構成したチームで樹立した記録でなければならない。また本大会へのエントリーにも同一県所属の選手でチームを構成する必要がある。

＊参加可能チーム総数の制限について

本大会は日本選手権であるので、第100回日本陸上競技選手権大会の参加資格６項「但し競技運営上困難が生じた場合は上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。」が適用される。

本大会の各種目の参加可能チーム数はそれぞれ27チーム以下とする。

28チーム以上のエントリーがあった場合は、参加資格（1）、（2）、（3）の順で優先される。

2016年シーズンの抱負

強化委員会

中距離部長　平田和光

2016年度中距離の強化方針は、以下の点を中心に進めていきたいと考えている。

1．リオデジャネイロオリンピックにおける男子800m準決勝進出、男子1500m、女子800m、1500mでの出場を目指す
2．オリンピック代表競技者を中心とした重点強化を実施する
3．チームジャパンとしてのオリンピックに挑む環境作りを行なう
4．ナショナルチーム構想の実現化を図り選手強化を具体的に推進させ、中距離の練習拠点確立・育成～強化の連動性を一元化・ナショナル専任コーチを設ける（海外コーチ含む）ブロックとして戦略・戦術を明確、そして体制を強固に世界で意識できるチーム作りを行なう（リオ～東京に向けて）

リオ五輪出場を目指すため、5月～6月に国内で参加標準記録突破レースを設定し記録突破を目指す。併せて海外主要大会に出場し記録突破を目指す。男子800mでは川元奨選手（スズキ浜松AC）および横田真人選手（富士通）は冬季シーズン、国際大会・海外高地合宿を実施し順調に強化が実施で出来た。リオ五輪に向けて目標である準決勝進出を目指す。女子800mは北村夢選手（日体大）および山田はな選手（東京学芸大）、男子1500mでは前田恋弥選手（明治大）、女子1500mでは陣内綾子選手（九電工）および須永千尋選手（資生堂）などの中距離種目を中心に取組んでいる若手・ベテランの有望選手も冬季トレーニングは順調に強化出来てきた。リオ五輪の参加標準記録突破等を目標に設定レース等で記録に挑戦する。併せてJISS及びNTCを中距離トレーニング拠点とし、指導及びサポートを実施していく。

代表が確定次第、最高のコンデションでリオ五輪に臨めるようにチームジャパンとして（スタッフ体制・科学スタッフ）連携を図り併せて、リオの情報収集を万全に環境に応じた計画の立案（事前合宿の時期、場所・現地入りする日程を決め、選手のサポートを万全に図っていく。

最後に、昨年度も研修合宿を充実させてきたが、中距離が「チームジャパン」として世界で戦えるよう、中距離独自の強化システム（陸連強化⇔医科学⇔専任コーチの連携と意思統一）の構築を積極的に進めていきたいと考えている。

男子長距離ロード部長　宗　猛

2015年を振り返ると、一番肝心な大会として捉えていた北京世界陸上は惨敗に終わったが、トラック種目では5000mと10000mで日本記録を更新することができた。10000mではリオデジャネイロオリンピックの派遣設定記録を2名がクリアし、少しずつ動き始めたシーズンであった。

2016年の大きな目標となるリオデジャネイロオリンピックでは、トラック種目となる5000m、10000mですでに多くの選手がオリンピック参加標準記録を突破している。ひとりでも多くの選手が代表となれるよう、選考会では積極的なレースを期待したい。また、マラソンでは、今冬のオリンピックの選考会で、大学生を含む多くの若い選手達が、「2020年の東京オリンピック」という4年後の目標を見据えて積極的にマラソンに挑戦した。東京オリンピックで結果を出す為には、リオデジャネイロオリンピックのマラソン経験が絶対に生きてくると考えている。リオデジャネイロから東京へと挑戦する選手達の奮起を期待する。また、長距離・マラソンブロックでは、3年ほど前から科学委員会・医事委員会と連携し、リオデジャネイロオリンピックに向けて選手・専任コーチの協力を得ながら暑熱対策に取り組んできた。長距離・マラソンの高速化と言われて久しいが、夏に開催されるオリンピックでは、「暑さ」をキーワードに、どのようにレースに

アプローチしていくかが重要だと考える。これまでのデータを検証しながら、実戦に活かしリオデジャネイロオリンピックでは表彰台を目指して欲しい。

女子長距離ロード部長　武冨　豊

2016年は当然リオ五輪で長距離・マラソンで入賞者を出し、東京五輪での女子マラソン復活の足掛かりにする事が最大目標となる。

女子マラソンでは、ロンドン五輪の結果からリオ五輪で入賞を目指すには、マラソンで２時間22分30秒を突破し、リオ五輪の舞台に立つ事を目標に、ニュージーランドや米国・アルバカーキで合同合宿を重ねて来た。合同合宿に参加してくれた選手達が、モスクワ世界陸上では、野口みずき選手（シスメックス）と合宿を共にした福士加代子選手（ワコール）が銅メダルを獲得する成果を出してくれた。また、北京世界陸上でも伊藤舞選手（大塚製薬）が７位に入賞しリオ五輪出場を決めた。１月31日の大阪国際女子マラソンでは、福士加代子選手（ワコール）が長年目標にして取り組んでいた２時間22分30秒を突破してくれ、リオ五輪で戦う準備が出来つつあると実感している。また、女子長距離でも五輪や世界陸上の前に代表選手合宿を行ない、レース戦略･トレーニング内容を共有する事で、北京世界陸上5000mでは鈴木亜由子選手（日本郵政グループ）が９位と惜しくも入賞を逃したものの、結果を出してくれた。リオ五輪に向けては、5000m・10000mともに若手が急成長をしている種目でもあり、春のシーズンが楽しみな状況になっている。

リオ五輪では､｢Team Japan｣としての意識を高め、レース戦略等の共有を行い、失敗を恐れず戦えるように全力を尽くしたい。また、これまで続けて来た合同合宿での取り組みを継続すると共に、陸連医科学委員会との連携を密にする事で、東京五輪で地元開催の優位性を生かせるよう暑熱対策等に取り組み、東京世界陸上（1991年）で男女マラソンでのメダル・入賞４を獲得した再現が出来るように精度を高め、東京五輪に向け世界を相手に戦う為に何をすべきか？が少しでも繋がるようなチャレンジを行いたい。

競歩部長　今村文男

2016年シーズンは、リオデジャネイロオリンピックにおける成果につながる強化事業の展開と次のオリンピックサイクルである2020年東京を視野にいれた育成強化事業を推進していかなればならない重要なシーズンでもある。

そこで、2016年のブロック強化方針として上期は、リオデジャネイロオリンピックにおけるメダル獲得に向けた強化事業の展開や強化のサポート体制作りを第一に考え、リオデジャネイロオリンピックとこれらにつながる国際大会での入賞・メダル獲得を目標とし、代表選手を中心とする少数精鋭による強化および支援体制を整えていきたい。特に、マルチサポート事業の対象種目である男子競歩においては、アスリート支援事業や日常サポートと連携させながら、オリンピック本番へ向けて準備を進めていきたいと考えている。

また、医事・科学委員会とも連携を図りながら、暑熱対策に関する医・科学サポートや個別のコンディションサポートを実施していきたい。

2016年下期においては、次のオリンピックサイクルである2020年東京を視野に入れた育成強化を念頭に入れながら世代交代や種目別強化を推し進めたいと考えている。そこで、最優先に取り組んでいかなければならないのが、種目トランスファーの促進である。特に、2020年東京オリンピックにつながるU19/U23競技者の重点強化を視野に入れつつ、20km競歩から50km競歩の種目トランスファーを意識した強化事業を展開し、新たなタレントの発掘や育成強化を図っていきたい。また、女子競歩においては、2020年東京オリンピックに向けた強化育成を柱とするジュニアターゲットスポーツ事業を中心に岡田久美子選手（ビックカメラ）や五藤怜奈選手（中部学院大学）など世界を目指すアスリートたちを日常の現場サポートや短期の合同合宿を通して､次のステージへ引き上げ、世界を狙えるアスリートへ育成強化していきたいと考えている。

ダイヤモンドアスリート・U19やり投フィンランド合宿報告

強化育成部　投てき担当　永井啓太

①合宿先・コーチを選んだ理由、経緯について

昨年から2020年の東京オリンピックを見据え、ターゲットエイジとなる選手や指導者に海外経験を積ませる目的で本合宿が実施されることとなった。

やり投は、日本のシニア世代も世界で活躍しており、投擲の中では最も世界に近い種目と言える。日本の中心選手はフィンランドの選手達と合宿をし、コーチから直接アドバイスを受けた経験があり、それが飛躍に繋がった。そこから、ジュニア世代にも海外経験をさせてみようという発想が生まれ、本合宿の実現につながった。また、単なる経験や選手の感覚だけで終わることなく、指導者が学ぶことも重要な目的であったことから、指導者も帯同することになった。フィンランドの「パユラハティ」という施設で世界選手権優勝者のキンモ・キンヌネン氏に指導を仰いだ。

キンモ氏は現在、フィンランドのジュニア担当ナショナルコーチと身体障害者競技のコーチで、世界ジュニアやパラリンピックに帯同し、各国のやり投選手を受け入れて指導を行っている。また、アメリカやヨーロッパ各国からコーチ要請を受けて指導を行っており、我々が合宿を行っている際にも、ラトビアからU20記録保持者のシルマリス選手がキンモ氏の指導を仰ぎに訪れていた。

以上のような経緯から、東京オリンピックを目指す若い選手と指導者の海外合宿がスタートを切ることとなった。

②トレーニング環境、設備、治安について

「パユラハティ」という施設は、首都ヘルシンキからはバスで１時間、タクシーで20分程度のラハティという町のナストラ地区にある。田舎町という感じで治安は良いと感じた。「パユラハティ」はフィンランドに４箇所ある国立スポーツセンターの一つで、宿泊施設も兼ね備えている。近年では障害者スポーツ施設の中心として位置づけされており、館内はバリアフリーに改装されている。周囲を湖と森林に囲まれフィンランド名物のサウナも完備されている。

雪国ならではの装備がされている。室内は暑くもなく、寒くもない快適な温度に管理されていて、真冬でもＴシャツ１枚で動けるように保たれている。300mのオールウェザーに対応可能な人工芝のフィールドがあるホール（屋内練習場）では、サッカーなどが盛んに行なわれていた。室内だが投擲練習も十分できる。その他、砂場やウエイト場も同じ空間の中にある。

③生活環境、食事について

宿舎は、各部屋にシャワー、トイレ、キッチンが設置されていて長期滞在にも対応できるようになっていきる。食事は３食バイキング形式になっていて館内の食堂で摂ることができる。言語は本来、母国のフィンラドだが、殆どの人に英通が通じるのでコミュニケーションは取りやす い。フィンラド人は内面的に日本人に似ていて、大人しくて親切な性質の人が多い。以上のように、生活環境も申し分のないほど素晴らしかった。

④練習内容等について

期間中はキンモ氏が全てスケジュールを考え、指導から全てを行ってくれる。指導者は、選手の近くでコーチングを聞きながらディスカッションを行うことや、選手の動きをチェックしてアドバイスをすることが役目となる。選手の自発的な活動を優先することが大切だと考え、最小限のサポートで留めるように心掛けた。

実際の練習内容は、日本で見たことの無いような特

別なものはなく、むしろ基本的な内容が多い。それだけ、フィンランドのトレーニングは日本に伝わっていて、日本でもスタンダードになっているとも言える。ただ、練習の実践的な部分においては、フィンランド特有のものが感じられた。

まず、スケジュールが２時間の３部構成で組まれている。練習内容も一つの内容を長く行うのではなく、種類を多くして少ない回数やセット数で回していく方法をとる。珍しいのは、軽い投げならそのメニューの中の一つという感覚で行ってしまうことである。例えば、専門的なウエイトの最後にダウン替わりに短時間の投げを入れたりする。これは、トレーニング中に説明した技術ポイントを確認することや、鍛えた筋肉を動きと繋げるためには理にかなっている。もちろん、投げの時間をしっかりとる時もあるのだが、全体の中のボリュームとしては少ない。結果、インパクトのあるメニューは少ないのだが全体を通してみるとバランスのよい練習になっていた。これは、基礎体力の強化と専門性の向上を同時に行う必要のあるジュニア期の選手には効率よい方法ではないかと感じた。練習時間を確保しにくい部活動が多くなっている現在の日本でも活用できるものが多いと思う。

⑤合宿先におけるトレーニングコンセプト、強化、育成の方針について

国際大会で力を発揮し、入賞することが明確な目的である以上、合宿の目的や方針についての説明は容易である。可能性を持ったトップ選手を選び、個人のスキルを上げ、海外の環境に適応できる力を身に付けることになる。

タレントを育成していくためには、新しいものを与えると同時に、短期間で成長したがゆえに、充分に時間をかけることができなかった基本的なことも伝えなくてはいけないと思っている。我々がフィンランドというやり投伝統国から学ばなければならないことは、新しいものを足すことよりもむしろ隙間を埋めることなのかもしれない。

⑥帰国後に生かしたい経験等について

陸上関係者にとっては「フィンランド＝やり投の強い国」というイメージは周知の事実だが、合宿前の私がそうであったように、実際の状況についてはほとん

ど知られていない。私たちは、まずこうした現状を改善するために情報を提供していくことが大切だと考える。

しかし、私たちも、この合宿だけで全てが学べたと思い込まず、次への関心や意欲に繋げていかなくてはいけない。「もっと他にもあるだろう」という貪欲な姿勢を忘れず、視野を内ではなく外へ向けながら、得たものを底辺の育成とトップの強化に生かす責任を感じている。そして、選手にフィンランドが相手でも「勝てる」という気持ちが芽生えてくれることを期待したい。

伝統や経験では圧倒的にフィンランドの方が豊富である。トレーニングにしても技術にしても、国内に共通の指標があり、指導者の地位も確立されている。それは、選手も同じである。やり投に限らず、スポーツや福祉に対する理解は日本より強いと感じた。まだ、学ぶことは多くあると思う。

⑦感想

この事業を始めるとき、強化育成部の山﨑部長と話したことがずっと頭に残っている。「海外に出て行く経験はプラスになり必要なことである。しかし、自由な発想で自立するアスリートに育たなければ意味が無い。依存し、頼る選手をつくるためにバックアップしているのではない。」という意見に私は強く共感した。

日本選手権、インカレ、インターハイは、それぞれのカテゴリーの中で目標となる試合である。しかし、その先の世界を目標にできている選手や指導者は、まだまだ少ないのかもしれない。考え方はそれぞれで構わないと思うが、選手の可能性を奪うことはあってはならない。そのために、私は多くの関係者の連携が必要だと考える。強化育成部内での連携。所属チーム、ホームコーチとの連携。協力機関との連携。もちろん選手とコーチの連携を持ちながらチームジャパンで結果を追求していく活動を続けて行いたいと思う。

最後に、継続してこの機会を与えていただいていることに感謝し、こうした活動が2016年のリオオリンピックやU20世界陸上競技選手権、さらには2020年の東京オリンピックでの結果につながっていくように、今後も微力ながら尽力したい。

第1回全国中学生クロスカントリー選手権大会中学生招待選手研修会報告

本研修会は、2015年ジュニアオリンピック競技大会の長距離種目にて、各種目の男女１位～３位まで入賞した選手ならびにその指導者を招待し、将来の有望選手としての動機付けを行いました。ゲスト講師として鈴木亜由子選手（日本郵政）から自身の中学生時代の経験談と招待選手からの質疑応答、髙橋昌彦監督から指導者に向けた講演が行われた。髙橋監督は、ご自身が元々中学校の教員であった経験から、中学校の現場の指導者に対して熱の入った講義が行われた。

○鈴木亜由子選手の小・中学生の経験談

小中学生の頃は、陸上競技とバスケットを両方やっていて、とにかく毎日体を動かしていた。当時を振り返ると、陸上だけでなく色々やっていたことが、今の自分に活きているのだと思う。

○招待選手からの主な質疑応答

Q. 辛い練習を乗り越える為には、どうしていますか？

A. 考え方次第だと思う。この練習をすると自分がどう成長できるのか、そこを考えると本当にきつい練習でも自然と乗り越えることができるし、いやいややるより練習の効果が出ると思う。

Q. 食事で気をつけていることは何ですか？

A. 体重を気にしてあまり食べない選手もいるけれど、私の場合実家がお米屋さんであることもあって、良くご飯を食べました。試合前は炭水化物を良く摂るように意識はしていますが、特別に何かやっているわけではないので、バランスの良い食事を摂ることをおすすめします。

○髙橋監督の講演

鈴木のように早い時期に芽を出した選手は走り過ぎて、怪我を重ねてしまうことが良く見受けられる。走らないと不安になるという選手も多いが、今は、レース数を極力抑えて怪我をしないことを重視している。

【招待選手一覧】 ※学年は大会時の学年

招待選手名	学年	都道府県	中学校名
横田　俊吾	3	新潟	山王中
小澤　大輝	3	静岡	裾野深良中
北脇　秀人	3	鳥取	鳥取南中
佐々木　塁	2	岩手	盛岡河南中
馬場勇一郎	2	愛知	上郷中
生田　琉海	2	徳島	阿南第二中
石田　洸介	1	福岡	浅川中
佐藤　俊介	1	千葉	西初石中
小牧波亜斗	1	京都	加悦中
小笠原朱里	3	石川	津幡南中
金山　琳	3	兵庫	加古川中
風間　歩佳	2	千葉	船橋旭中
山本晏佳吏	2	岡山	琴浦中
齋藤　みう	1	静岡	町立清水中
岸本　百桃	1	鳥取	鳥取西中
川本　莉子	1	広島	大野東中

自身の経験を語る鈴木亜由子選手

積極的に質問する招待選手

2016JRDM（ジャパンレースディレクターズミーティング）報告

「市民マラソン・市民ランナーへの日本陸上競技連盟の計画と期待」をテーマとした『2016ジャパンレースディレクターズミーティング（JRDM）』を２月27日東京ファッションタウンビル会議室（東京都江東区）において開催した。

これは、マラソン大会等で運営にあたる方々や都道府県陸上競技協会の方々を対象とした会合で、近年の市民マラソン大会隆盛や市民ランナーの増加という社会的な背景のなかで、今後、日本における陸上競技の進む道を議論するとともに、参加された皆さまからも各大会における取り組みや問題点等をご紹介いただき、情報を共有することで、より良い大会運営に役立てていただくことを目指して企画した。当日は、全国から200 名を超える方々の参加をいただき、闊達な議論や情報交換行った。

＜プログラム内容＞

総合司会：金哲彦NPO法人ニッポンランナーズ理事長

13：00 【開会】

13：10 【プレゼンテーション①】尾縣　貢 （専務理事）

13：25 【プレゼンテーション②】前河　洋一 （普及育成委員会ランニング普及部長）

13：40 【パネルディスカッション】

≪ファシリテーター≫ 金哲彦　NPO法人ニッポンランナーズ理事長

≪パネリスト≫ 早野忠昭　東京マラソンレースディレクター

前島信一　長野マラソン大会事務局

升川清則　神戸マラソン実行委員会事務局長

尾縣貢　日本陸連専務理事

前河洋一　日本陸連普及育成委員会ランニング普及部長

大嶋康弘　日本陸連事務局事業部長

15：00 【閉会】

＜各プログラムの内容の詳細＞

【プレゼンテーション①「今後のマラソンのあり方を考える」】

尾縣貢（日本陸上競技連盟専務理事）

尾縣専務理事は、スポーツ基本法の成立や2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定、スポーツ庁設置など、大きな変革の波の中にある日本のスポーツ界の現状を踏まえて、日本陸連が目指そうとしている今後のあり方や取り組みについて述べた。

- これまで本連盟が主軸を置いてきた「競技スポーツとしての陸上競技」（競技陸上）に加え、「健康のため、あるいは楽しみのためのスポーツとしての陸上競技」という位置づけの「ウェルネス陸上」を提案し、推進していく。ウェルネス陸上で目指すのは、1）陸上競技を通じて人々を元気にする（陸上競技、特にランニングを生涯スポーツとして位置づけ、実践によりライフワークバランスを提唱したり、健康寿命を延ばしていったりすることに貢献する）、２）陸上競技を通じて地域を元気にする（さまざまな形のコミュニティを、スポーツの場につくっていく）の２つ。
- エリートから市民ランナーまで2,000万人とも言われるランナーの数、最も身近な運動であること、適切に行えば人々を健康にする一番の手段といえること、走らなくても見たり支えたりすることで関わっていけること等の観点から、人々が一番関与しやすいスポーツといえるランニングを、ほかのスポーツに先駆けて、「文化」にしていくことを目指したい。
- ランニング人口の増大に伴い、全国で開催されるマラソン大会やロードレースの数もここ数年で大幅に増えているが、一方で、日本陸連が実施を把握していない大会（未公認大会）においては、エントリー、距離・計測、安全、自治体の負担などで問題が生じている例もあると聞く。また、せっかくランニングを始めたランナーが抱える問題も多く、実践に必要な知識や情報の不足から継続できずにやめていく者が非常に多いことがわかっている。単なるブームに終わらせず、「ランニングを文化にする」ためには、こうした点をなくしていくための努力が不可欠となってくる。
- 日本陸連として、多くの人たちが議論したり情報共有したりできる場として、新たに「ロードレースコミッション」を創設する。具体的には、1）安心安全な大会をつくること（基準づくり、承認制度）、2）正しいランニング普及（講習会実施、指導者養成）を進めていく。

【プレゼンテーション②「市民ランナーの現状とランニング普及部の取り組み」】

前河洋一

（日本陸上競技連盟普及育成委員会ランニング普及部長）

前河ランニング普及部長は、これまでの経験や調査を踏まえ、市民ランナーの現状とランニング普及部の取り組みを紹介した。

- 2007年にスタートした東京マラソン以降全国各地にランニングブームが広がった。東京マラソンのエントリー数は年々応募者が増加している。初期のころは「応募して当たったら練習しよう」という応募者が多かったと聞くが、現在ではどの参加者もそれなりに準備してレースに臨むようになっている。その点が、この10年の変化と思われる。
- 出場するランナーの男女構成では女子が２割程度（海外に比べるとまだ少ない）、年代構成では40 ～ 50代が多い。これらのランナーのトレーニングは週に２～３回程度（２日に1回、あるいは週末のみ）が多いが、なかには週９回以上という人もいる。始めたきっかけとしては、健康に関する面や体力づくりが多い
- 一方で、ランニングをやめてしまうケースもある。１年以内に故障やケガを経験したランナーは７割を超えていることから、大半のランナーが何かしらのトラブルに見舞われているということができる。これは知識の不足、トレーニングの方法がわからない、トレーニング過多など、さまざまな原因が考えられる。
- 日本陸連では15年前から市民ランナー対象のランニングクリニックをスタートさせ、200人規模のランニングクリニックを展開してきた。そこでランナーたちから寄せられた悩みとしては、「走り方がわからない」「ケガを

してしまう」「走る時間がない」「走る場所がない」「指導者がいない」などが多かった。こういったことを踏まえて、長野マラソンでは、初期のころから日本陸連主催の「マラソンクリニック」を実施している。

- ランナー人口が増えると、そのぶんさまざまなトラブルが起きる可能性は当然大きくなる。また、大会に参加するにあたっては、各ランナーにきちんと準備して臨んでもらうことが大事なテーマになり、そのためには市民ランナーへの指導にも取り組むことがとなってくる。今後、市民ランナーにもあてはまるようなシステムをつくっていけないかと考えている。指導を受けるに当たっては、誰に教えてもらっても同じ質が得られることが重要で、それが最終的に、安心・安全や健康面のトラブル予防につながってくる。今後、我々が取り組んでいくべき部分でもあるが、ぜひ、各地域の大会関係者にもこうした点に意識をもって一緒に取り組んでいただければと思う。

【パネルディスカッション】

パネルディスカッションには、東京マラソンレースディレクターの早野忠昭氏、長野マラソン大会事務局の前島信一氏、神戸マラソン実行委員会事務局長の升川清則氏をパネリストとしてお迎えし、プレゼンテーションを行った尾縣専務理事と前河ランニング普及部長のほか、本連盟事務局の大嶋康弘事業部長が登壇した。

来場されたレース関係者の皆さまへ行っていた事前のアンケートから、テーマを、1）集客、2）ボランティア、3）救護・警備、4）日本陸連へ期待することの4つに絞って行った。まず、ファシリテーターを務めたNPO法人ニッポンランナーズ理事長の金哲彦氏が、アンケートに記載された各団体や組織における問題点を紹介し、当事者（記入者）から説明を加えていただいたのちに、パネリストが自身の例や提案を述べるという形で意見交換が進められた。課題となっていることやさらなる改善を目指している点が議論されただけでなく、各レース大会において、さまざまな工夫や配慮がなされている様子も垣間見ることができ、非常に有意義な情報共有の場となった。

＜議論された質問事項＞

1．集客

- 外国語表記看板や外国人ランナーへのもてなしをどうしているか。
- 地域内にある空港を利用して、九州方面からの集客を増やしたい。
- 組織力や財力のないなか、コース周辺の住民の方々の支援や応援を得るためにどうすればよいか。
- 大会参加者に、その後も主催市のスポーツ振興を応援してもらえる仕組みをつくりたい。また､観光等でのリピーター、移住・定住促進等の街づくりのテコとなるイベントに育てていけないか。

2．ボランティア

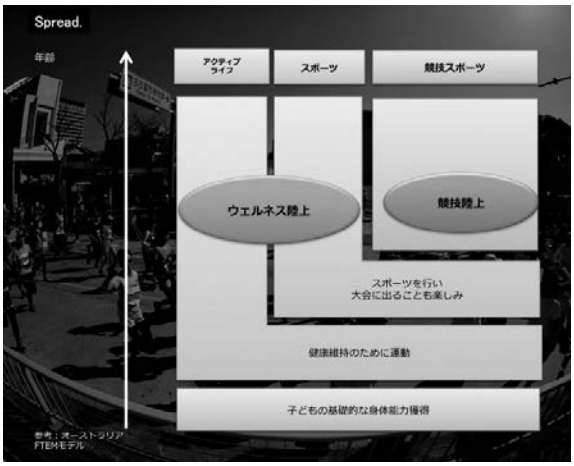
- ボランティア集めに非常に苦労している。何かよい方法はないか。
- 審判員の拘束時間と健康管理。中規模都市では人材確保が非常に難しく、交代なしで長時間の対応をお願いしなければならない。よい方策はないか。
- 地域の高齢化が進んでおり、企業ボランティアを増やしていくことを考えている。企業ボランティアの参加人数を増やしていく方法はないか。

3．救護・警備

- 警備費の支出が年々増え、負担が大きくなってきているが。ほかの大会ではどうしているか。
- AEDの設置を、どのくらいの規模で行えばよいか。費用面もあるが万全の態勢を整えたいと考えているのだが。
- 保険や補償等、本当に大切な事柄について、スタンダード化を図っていくことはできないか。

4．日本陸連へ期待すること

- 連絡協議会などの横の繋がりをお願いしたい。
- 運営のための標準化されたマニュアルが欲しい。



アジア陸上競技連盟(AAA)会議報告

第84回アジア陸上競技連盟(AAA)理事会報告　　会長　横川浩

2016年2月17日～18日に第84回アジア陸上競技連盟理事会会合がカタール・ドーハで開催されたので、国際陸上競技連盟(IAAF)のカウンシルメンバーとして参加した。同会議にはSebastian Coe IAAF会長並びにJean Gracia CEO/事務局長も出席した。概要は以下の通りである。

1．Coe　IAAF会長の発言

アジアは陸上界にとって、大変重要な地域であり、IAAFはAAAと協力しながら、陸上の発展に邁進していく。アジアは、マーケティング、国際大会の開催実績と運営能力、選手の競技力の伸び等で高く評価出来るが、その反面、陸上の普及発展が遅れている国もあるので、様々な方策を取る事が必須である。

2．Dahlan　AAA会長の発言

これからはアジアの時代であり、AAAは真の結束を持って、活発な活動を推進しなければならない。そのスタートとして、今回、新たに創設されたコミッションの会議が開かれたが、各々で活発な議論が行われ、様々な提案が挙げられたので、今後はそれらをカウンシル会議等で更に検討し、アジア戦略の推進に向けて取り組んでいく。

3．コミッション会議

次のコミッションが開催された。①Development ②Competition ③ Youth & School　④ Finance & Marketing　⑤ Judicial　⑥ Athletes ⑦Competition Organization

主な提案内容としては、アジア戦略プランの再構築、開催大会の見直しや追加、大会カレンダーの検討、新システムの導入（競技会のシリーズ化）が挙げられる。

Legal CommissionはJudicial　Commissionに名称を変更し、AAA憲章、マーケティング契約、大会開催要件等の精査を早急に実施する。

4．今後の大会

○アジア選手権マラソン　2017年4～5月に中国・上海で開催
○アジア陸上競技選手権大会　2017年にインド・ジャールカンド州のラーンチー（Birsa Munda Athletics Stadium）で開催（AAAによる事前視察が終了。開催日程は未定）
○アジアユース陸上競技選手権大会　2017年5月にタイで開催
○2016年アジア・グランプリシリーズは開催無し

5．その他

今後、アジア陸連役員に対する定年制の導入や倫理委員会の設置等について検討する。又、エリアITO（国際技術委員）の育成やコミッティーやコミッションの活動の活性化により、AAAの組織力を強化していく。

AAA School and Youth Commission会議参加報告　　尾縣貢

AAA School & Youth Commissionの第1回会合が、2016年2月16日、カタールのドーハで開催された。メンバーは次の通り。

委員長　Philip Elia Juico（フィリピン）　アジア陸連副会長
委員　Maj Gen Palitha Fernando（スリランカ）
Ruqaya Al Ghasra（バーレーン）
Muhammad Jumah（クウェート）欠席
Mitsugi Ogata（日本）

コミッションの前半では、事前に通知されていたアジェンダに関して、Juico委員長から概要説明があり、アジアの陸上競技の中でユース世代が置かれている状況、課題、進むべき方向などに関する理解を深めた。その後、私から事前に宿題として与えられていた「日本における陸上競技の普及の現状と課題について」のプレゼンテーションを行った。ある委員からは、「日本のように小学校・中学校期に多くの競技会を設定できないし、また参加者も見込めない」という意見が述べられ、アジアの中で、低年齢層における日本の陸上競技の普及は異例であるという思いを持った。この会議の一部に出席していただいたDAHLAN JUMAAN AL HAMADアジア陸連会長の挨拶にあった「これからはアジアの時代だ。School and Youth の活動を盛んにすることがアジアの陸上競技の発展の鍵となる」という言葉は、発展途上にあるアジアの陸上競技の課題を鋭く指摘しているものであると感じた。

コミッションの後半では、本コミッションのビジョン、使命、目標、戦略などを協議しながら文章化した。ここでの協議の中心は、「多くの子どもが陸上競技に参加する方策は何か」「ユースのアスリート育成プログラムの作成をいかに進めるか」「アジアとしてコーチをどのように養成していくか」「ユースの活動の商業価値を高め、いかに支援を得るか」「学校体育での陸上競技の取り組みをいかに推進していくか」などであった。Dahlan会長の挨拶にもあったように、アジアの競技力向上のためにはユース世代の陸上競技への取り組みを充実させることが必須であり、今後、アジア陸連としても最重要課題として取り組んでいく必要性を感じた。

AAAアスリートコミッション会議参加報告　　室伏広治

AAAアスリートコミッションの第1回会合が、2016年2月16日、カタールのドーハで開催された。

コミッションは昨年、AAA理事会に指名された5名で構成されるが、私は、AAAのダーラン会長からの要請で委員長に就任。今回の会議でも議事進行と会議の取りまとめをおこなった。メンバーはつぎの通り。

委員長　室伏広治（日本）
副委員長　Hadi Soaan Somayli（サウジアラビア）
委員　P.T.Usha（インド）
委員　Wang Yu（中国）
委員　Nikita Filippov（カザフスタン）　欠席

会議冒頭、AAAのダーラン会長も出席し、コミッションに期待する点として、「選手の将来像」、「陸上競技活性化のアイディア」、「メディアへの顔」、「選手を守る」、「アジアのレベルの向上」を強調した。

今回の会合ではつぎの議題について議論が交わされた。

1．コミッション規定
2．コミッションメンバーの増員。特に女性
3．副委員長の選出
4．各国陸連のアスリートコミッション
5．アジア選手権での選挙方法
6．アジアでの選手環境の向上
7．アジアでの競技会準備とマネージメント

委員の構成が専門種目や居住地域に配慮されていたことで、実に多様で前向きな意見がたくさん寄せられ有意義な会合となった。

その中で、私は、ドーピングから選手を守ることを強調したが、すべての委員から賛同を得、特に、女性短距離選手として活躍したインドのウシャ委員からは、辺境地域での若い選手たちへの啓蒙活動をすべきとの提案があった。

会合の最後に、コミッションとしてまとめた、AAAカウンシル会議への主な推奨事項は次の通り。

1．選手のコミュニケーション、学習システムの構築
2．ドーピング防止の啓蒙活動を辺境地域から
3．アジアでの競技会で選手からの声を聞くシステムを
4．陸上競技普及のためのソーシャルメディアやマスコミのさらなる活用
5．アジアのすべての選手が平等に競技会に参加できる機会を
6．AAA大会への全加盟国から参加できるような参加規定の創設

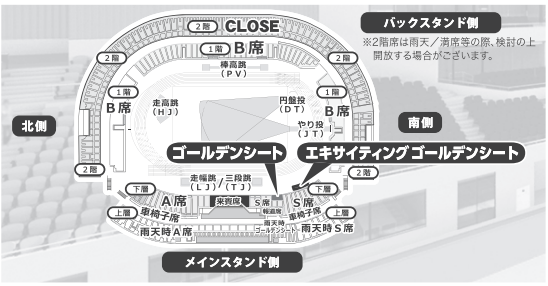
大会観戦ガイド

IAAFワールドチャレンジ第3戦 セイコーゴールデングランプリ陸上2016川崎 兼 第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）代表選手選考競技会

▼日時：2016年５月８日（日）
競技開始時間　12時00分予定（オープニングセレモニー11時35分開始予定）
▼会場：神奈川県・川崎市等々力陸上競技場
神奈川県川崎市中原区等々力1-1
▼アクセス：
- 東急東横・目黒線、またはJR「武蔵小杉」駅より徒歩20分
- 東急東横･目黒線、またはJR「武蔵小杉」駅よりバス（溝の口方面行）で「市営等々力グラウンド入口」下車徒歩５分
- 東急田園都市線「溝の口」駅またはJR「武蔵溝ノ口」駅よりバス（武蔵小杉方面行）で「市営等々力グラウンド入口」下車徒歩５分
- JR南武線「武蔵中原」駅より徒歩15分

※駐車場は使えませんので、公共交通機関をご利用ください。

▼種目：
【ワールド・チャレンジ】
＜男子11種目＞
100m、200m、400m、800m、3000m、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、円盤投、やり投
＜女子８種目＞
100m、800m、400mH、3000mSC、走高跳、走幅跳、三段跳、やり投
【オープン】
＜男子１種目＞
走幅跳
＜女子３種目＞
200m、4×100mR、4×400mR
【パラリンピック種目レース】
＜男子１種目＞
100m T43/44
※種目は、予告なく変更になる場合があります。
▼テレビ放送予定：TBS系地上波で放送
15時00分～16時54分
▼ラジオ放送予定：かわさきFM 79.1MHz
14時00分～17時00分
▼公式HP：http://goldengrandprix-japan.com
▼チケット：好評発売中



※風向きなどにより、競技位置が変わることがあります。ご了承ください。

一般入場券のご案内
前売券ご購入の方のみ公式プログラム付!!

座席	前売り	当日
S席／一般（エリア内自由席）	3,500円	4,000円
S席／小学・中学・高校生（エリア内自由席）	2,500円	3,000円
A席／一般（エリア内自由席）	2,500円	3,000円
A席／小学・中学・高校生（エリア内自由席）	1,500円	2,000円
B席／一般（エリア内自由席）	－	1,000円
B席／小学・中学・高校生（エリア内自由席）	－	500円

※小学生未満無料。
※S席はA・B席へ移動可能。A席はB席へ移動可能。
※団体割引は、10枚単位で販売（大会問い合わせ窓口にて前売券のみ対応。プログラムは付きません。）
※シルバー割引（当日券のみ）は、60歳以上の証明書提示にて一般料金より50％割引（S・A・B席対象）。
※障害者割引（当日券のみ）は、証明書提示にて一般料金より50％割引、付添人１名まで同一料金（S・A・B席対象）。
※各種割引詳細、車椅子席等のお問合せは大会問い合わせ窓口まで。

前売り一般入場券販売所

■チケットぴあ
Pコード：HPをご確認ください。
インターネット購入　http://t.pia.jp/t/
電話予約：0570-02-9999　（Pコード予約）
（店頭販売）
・ぴあ店舗
※営業時間は店舗によって異なることがございます。
※所在地･営業時間はhttp://t.pia.jp/guide/retail.htmlよりご確認下さい。
・セブン-イレブン
※店頭のマルチコピー機よりお買い求め下さい。
・サークルK・サンクス（7：00～23：00）
※店頭のカルワザステーションよりお買い求め下さい。

■ローソン
Lコード：HPをご確認下さい。
インターネット購入 http://l-tike.com
電話予約：0570-084-003
（店頭販売）
・ローソン
※店頭のLoppiよりお買い求め下さい。

■e＋（イープラス）
インターネット購入　http://eplus.jp/
（店頭販売）
・ファミリーマート
※店頭のファミポートよりお買い求め下さい。

■CNプレイガイド
インターネット購入　http://www.cnplayguide.com
電話予約：0570-08-9999（10：00～18：00）
※オペレータ対応
（店頭販売）
・セブン-イレブン
※店頭マルチコピー機のセブンチケットの項目よりお買い求め下さい。
・ファミリーマート
※店頭のファミポートよりお買い求め下さい。

■チケットに関するお問い合せ先
大会問い合わせ窓口（一般入場券のお問い合わせ等）
TEL 03-5974-1192（平日 10：00～18：00）

JAAF OKAYAMA 一般財団法人岡山陸上競技協会

〒700-0012　岡山市北区いずみ町2-1-11　岡山県陸上競技場内
TEL.086-214-3156　FAX.086-214-3156
http://www.tiki.ne.jp/~oka-rikkyou/

岡山陸協は平成28、29年度の役員改選を行い、新たな役員で新しいシーズンを迎えました。

今年度は岡山市で「2016 情熱疾走 中国総体」の陸上競技と第２回を迎える「おかやまマラソン」という大きな大会が控えています。

岡山でのインターハイ陸上競技開催は昭和52年以来。会場となる岡山県陸上競技場の一部リニューアルも終わり大会を待つばかりとなっています。

一方、今年第２回となるおかやまマラソン。昨年11月、中四国最多の１万４千人が出場、岡山県内に14億１千万円の経済波及効果があったということで、第２回大会はフルマラソンの定員を１万５千人に増やし、さらに巨大化します。

インターハイ、おかやまマラソンともに全国から多くの選手、観客を集めて開催されます。関係各方面と協力を密にしながら緊張感をもって大会運営にあたりたいと考えています。

第１回おかやまマラソンスタート風景（山陽新聞社提供）

JAAF YAMAGUCHI 一般財団法人山口陸上競技協会

〒753-0815　山口市維新公園4-4　維新百年記念公園陸上競技場内
TEL.083-920-6125　FAX.083-920-6125
http://yaaf.jp/

山口陸上競技協会は、国体が開催された2011年より一般財団法人化を行い、今年で6年目に入ります。2016年は第3期の2年目となります。組織の改編や専門委員会等の見直しを行い、山口県の陸上競技の発展のために尽力して参ります。昨年12月、10年間連続開催を行った全国中学校駅伝大会が一段落。現在は2018年に開催が決定した日本選手権の準備委員会・実行委員会発足に向けて準備中です。

また、最近では山口県出身選手の活躍が目立っています。全国規模のマラソン・駅伝大会等で高島由香選手（デンソー）、中本健太郎選手（安川電機）、田村和希選手（青山学院大）らの力走は我々を勇気づけてくれました。

2月末からは早々と強化記録会も行われ、2016年のトラックシーズンに向けても徐々に盛り上がりを見せています。

（文責：普及育成委員長　藤田昌彦）

JAAF HIROSHIMA 一般財団法人広島陸上競技協会

〒730-0011　広島市中区基町4-1　県立総合体育館
（公財）広島県体育協会内
TEL.082-223-3256　FAX.082-222-6991
http://yasumikiyuki.web.fc2.com/index.htm

今年度の織田幹雄記念国際陸上競技大会は、第50回の記念大会である。この50回を一つの節目とし、今後50年後を見据え、益々陸上界の活性化を図っていきたいと考える。今回のプログラムやポスターに掲載された、「世界人と成るべし」という織田幹雄さんの直筆の文字には、ご子息様への思いとともに、未来への願いが込められているととらえている。今年、織田幹雄さんの出身地である海田町の5年生児童が、国語の授業で「織田幹雄さんのことをもっと知ってほしい」と伝記の学習で紹介パネルづくりをした。その中で、競技人としての偉大さとともに、人としてのすばらしさに児童は気付いた。人に対する思いやりや、『世界人』つまり、国や人種の枠にとらわれない公平な考え方、時代の先を読むグローバルな視点など、様々な発見があった。児童が気付いたことは、一人一人違っても、織田幹雄さんに対する尊敬の念は共通だった。「海田町の誇り」である「世界人　織田幹雄」について学んだ子どもたちは、その志を受け継ぎ、自分の人生に生かすであろう。これから50年先も楽しみである。

（文責：企画広報委員長　藤原文代）

JAAF TOKUSHIMA 一般財団法人徳島陸上競技協会

〒772-0011　鳴門市撫養町大桑島字濘岩浜6-23
TEL.088-678-7914　FAX.088-678-7921
http://www.jaaftokushima.com/

４月９日、10日の徳島陸上カーニバルを皮切りに、県内のトラックシーズンが幕を開けました。３月中旬にマラソンの伊藤舞選手（大塚製薬）のオリンピック出場が決定し、本協会として明るいニュースとなりました。伊藤選手の他、注目選手の展望をしてみます。

まず社会人では、400ｍの金丸祐三選手（大塚製薬）の日本選手権12連覇、110ｍの大室秀樹選手（大塚製薬）の日本記録更新が期待され、伊藤選手と共に五輪の切符を手に入れてほしいと願います。投てきでは円盤投の中田恵莉子選手（四国大職員）が日本選手権優勝を目指しています。

大学生では昨年砲丸投と円盤投のジュニア日本新記録を樹立した幸長慎一選手が徳島の四国大に進学し、さらなる飛躍に向けたスタートの１年になります。また短距離の小山晶選手（立命館大）、砲丸投の西川チカコ選手（福岡大）も全日本インカレ等での活躍を期待しています。

高校生は、お家芸である投てき種目に注目選手が集まります。ハンマー投の泉花奈選手（生光学園高）円盤投の田口敦士選手（生光学園高）砲丸投の馬場さくら選手（生光学園高）円盤投の髙木智帆選手（鳴門渦潮高）円盤投の片山明莉選手（鳴門渦潮高）らが中心になりそうです。また女子の跳躍にも走幅跳の山本渚選手（鳴門高）走幅跳の喜多世奈選手（徳島市立高）走高跳の小笠原麻結選手（城南高）走高跳の藤田もも夏選手（鳴門高）など全国大会で活躍しそうな有力選手が揃っています。

中学生では昨年のジュニアオリンピックで入賞した1500ｍの生田琉海選手（阿南第二中）走幅跳の吉田美優選手（阿南中）が今シーズンも活躍しそうで楽しみである。

（文責：強化委員長　藤川晋吾）

陸協NEWS

JAAF KAGAWA 一般財団法人香川陸上競技協会

〒763-0053　丸亀市金倉町830番地　香川県立丸亀競技場内
TEL.0877-21-5710　FAX.0877-35-9061
http://gold.jaic.org/jaic/member/kagawa/index.htm

２月６日・７日に第70回記念香川丸亀国際ハーフマラソンが開催されました。６日は小学生駅伝・３㎞の競技のほかにジョギング教室も行われ、７日はハーフマラソンが行われました。今年のハーフマラソン出走者は10,173名、前日に行われた３㎞と小学生駅伝を合わせると、11,015名ものランナーが丸亀の地を駆け抜けました。70回という記念大会を盛大に開催することができました。ありがとうございました。その後の香川室内跳躍記録会、３月の投てき記録会も予定通り行われ、2015年度の香川陸上競技協会主催の競技会をすべて終えることとなりました。

2016年度の香川陸上競技協会主催の競技会は４月16日（土）、17日（日）の丸亀カーニバルからとなります。また、毎年県外からたくさん参加いただいている香川県選手権（今年度は５月３日・４日）ですが、競技運営の都合のために参加標準記録を設けたり、県内選手のみの種目を設けたりして、参加者数の制限を行うこととなりました。例年と異なるところがありますので、よくご確認の上、エントリーをお願いします。

今年はリオ五輪の年です。昨年は本県から荻田大樹選手（ミズノ：男子棒高跳）が北京世界陸上選手権に出場し、決勝進出まであとわずかというところまで迫りました。荻田選手をはじめ、本県出身の選手達がリオの地で活躍することを期待しています。

（文責：事務局長　山尾英二）

JAAF KOCHI NPO法人 高知陸上競技協会

〒781-0311　高知市春野町芳原2485　春野総合運動公園内
TEL.088-841-9940　FAX.088-841-9940
http://npo-kochi.sports.coocan.jp/

２月に開催された高知龍馬マラソンは、今年で４回目をむかえ参加者が約１万人と、過去最高の参加者数となり、大いに盛り上がりました。年度終わりのしばしの間、競技会が無い期間を過ぎると、平成28年度競技日程のもと、また新しい年度がスタートします。例年、４月最初の大会では陸上協会表彰式がフィールドで開催されます。前年度に優秀な成績をおさめた選手や指導者、陸上協会に大きく貢献いただいた審判の方々を表彰するものです。みな、表彰されたことを励みとして、今後より一層精進をしていくはずです。トラックでは、中学や高校に入学した学生が新しい環境のもと、陸上競技に取り組んでいるフレッシュな姿も目につき、久しぶりに集う審判・役員の方々とも談笑しながらのスタートです。気持ちを新たにしての１年がはじまります。

（文責：総務委員長　島津卓）

昨年の表彰式の様子

JAAF EHIME 一般財団法人愛媛陸上競技協会

〒790-0004　松山市大街道3-6-2　岡崎第五ビル501
TEL.089-968-2229　FAX.089-968-2231
http://www.ehime-rikujyo.jp/

平成28年度のシーズンインを間近に控え、練習にも余念のない日々ではないでしょうか。今冬は全国的にも暖冬傾向とはいえ、寒暖の差が大きく、雨量も多かったため、選手の仕上がり具合は遅れ気味だと感じています。

さて、平成29年に開催されますえひめ国体に向けて、競技場の改修もほぼ終了しましたが、陸上競技専用とはいえず、使い勝手は満足のいくものではないのが残念です。また、運動公園内のレイアウトも決定しましたが、皆さんの納得いくものではないかもしれません。審判用具も不備な点は多々ありますが、この環境の中でもできない理由を他に求めず準備を進めているところです。

来る、８月27～28日には、従来の四国選手権をえひめ国体のリハーサル大会として松山市実行委員会と協議し、本番さながらの運営を予定しています。四国の３県から各県30名程度の協力審判員に来県していただき部署や役割を周知し、中・高校生補助員の役割分担や動きの確認、練習会場での問題点など、多岐にわたり改善点を洗い出し、本番に備える所存です。何事もなく終了することがベターですが、各パートで色々な不備な点やトラブルをえひめ国体成功への示唆ととらえて準備に生かしていきたいと思っています。

あと１年半に迫ったえひめ国体において、参加していただいた選手・スタッフの皆様に公正・正確な運営ができますよう一丸となって鋭意努力を重ねていきたいと思っています。

（文責：専務理事　中山桂）

JAAF FUKUOKA 一般財団法人福岡陸上競技協会

〒812-0011　福岡市博多区博多駅前2-1-1　福岡朝日ビルB2F
TEL.092-474-0002　FAX.092-474-0002
http://www.fukuriku.com/

昨年12月の陸連理事会に於いて、2019年の日本選手権開催が福岡に決まりました。３年後の開催に向けて、若手審判員の養成や大型映像を駆使した全国規模の競技運営のノウハウをいかに整備していくかが大きな課題です。老朽化が目立つ競技場の整備と合わせて、万全の体制で日本のトップアスリートをお迎えできるようにしたいと考えています。そして、開催後は福岡に競技運営のレガシー（遺産）を遺していければと、考えています。

福岡では、今年度も例年並みの競技会を開催します。過密スケジュールの一年間になりそうですが、福岡陸協として、春先の審判伝達講習会や新規審判講習会を経て、万全の体制を整え、完璧な競技運営ができるよう努力していきたいと思います。

（文責：総務部長　橋本忠志）

事務局からのお知らせ

◇◆JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会◆◇

2016年度JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会（日本体育協会公認陸上競技指導員養成講習会）
2016年度は全国19会場で開催決定！

ブロック	会場
東北	秋田、山形、福島
関東	埼玉、千葉、東京
北陸	石川
東海	静岡
関西	滋賀、大阪、兵庫
中国	広島、山口
四国	香川
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、大分、沖縄

日程・申込方法等の詳細につきましては、4月中旬に日本陸連HPに掲載予定です。

◇◆2016年トラック&フィールドシーズンが始まります！◆◇

いよいよ今夏開催の第31回オリンピック競技大会（2016 ／リオデジャネイロ）の代表の座をかけた2016年トラック&フィールドシーズンが始まります！
4月からの競技会の情報は、公式WEBサイト
http://www.jaaf.or.jp/fan/taikai/2016.html　に掲載しています。
是非、競技場でご声援をお願い致します！

◇◆陸連時報を本連盟公式WEBサイトで公開しています！◆◇

2013年1月号から陸連時報を本連盟公式WEBサイトで公開しています。
アドレスは、http://www.jaaf.or.jp/rikuren/jihou.html　です。

陸連時報編集委員

◇編集委員
横川　浩（陸連会長）
友永　義治（陸連副会長）
八木　雅夫（陸連副会長）
尾縣　貢（陸連専務理事）
麻場　一徳（陸連強化委員長）
風間　明（陸連事務局長）
牧野　豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者
大嶋　康弘
◇時報編集担当
繁田　進
石塚　浩
木越　清信
宮田　宏
高橋　祐哉
小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト http://www.jaaf.or.jp/
公式動画サイト http://japanathletics.tv/